

クリプトタイプ文法の輪郭（1）

村 上 丘

0. はじめに

本稿の目的は、〈クリプトタイプ文法〉(cryptotype grammar) の枠組みを構築し、さまざまな英語の言語現象を新しい観点に基づき記述することにある。〈クリプトタイプ文法〉は、対立関係をなさない範列的關係にある言語要素を抽出し、それと統合的關係を結ぶ言語要素の分布を確定する。これによって、単独の文内部の構造分析よりも、複数の文同士の関連性を明確にする。

第1章においては、〈クリプトタイプ文法〉の根幹となる概念について概説する。第2章においては、形容詞構文を、単極形容詞・双極形容詞・中和形容詞の3つに分類する提案を行う。第3章においては、〈クリプトタイプ文法〉の記述の具体例として、前置詞句を従える形容詞構文を考察する。

1 〈クリプトタイプ文法〉

ある特定の明示的な言語要素と結びつくことによって明らかになる潜在的な範疇 (covert category) を、〈クリプトタイプ〉(cryptotype) と呼ぶ。例えば、一群の動詞close, fasten, wrap,...は、〈クリプトタイプ〉である。なぜなら、それらは、否定接頭辞と結合して、unclose, unfasten, unwrap,...を形成するからである。

〈クリプトタイプ〉は、ソシュールの用語を用いれば、次のように規定することができる。

(1) 〈クリプトタイプ〉とは、ある特定要素と統合的關係を持つ範列的關係にある語の集合である。

〈クリプトタイプ〉は、必ず顕在的な要素と結合するが、それが、とりもなおさず、意味的な一貫性を保証するわけではない。また、意味的に一貫性を持つ言語要素が、必ず、顕在的な要素と共起し、〈クリプトタイプ〉を構成するわけでもない。〈クリプトタイプ〉という概念は、直感に依存しがちな範列的關係にある語群を、共起関係という統語的手段で規定することができる点で、有用であると考えられる。しかし、それを真に言語学的に有意義なものにするためには、意味的な側面を考慮に入れ、当該の〈クリプトタイプ〉に属する集合を、規制する必要がある。

すでに掲げた事例を再考しよう。bind, lock, bolt, tie, close, fasten, wrap, looseなどは、上記の規定に従えば、すべて、ひとつの〈クリプトタイプ〉に属する。なぜなら、すべて、反対動作を表す否定接頭辞un-と共起するからである。しかし、そのなかで、looseは、意味的に異質である。なぜなら、他の動詞は、意味的に《閉鎖》を表し、否定接頭辞がついた場合は、《開放》を表す。一方、looseだけは、《開放》を表し、否定接頭辞がついた場合も、やはり、《開放》を表す。〈クリプトタイプ〉の集合から、このような異分子を排除し、〈クリプトタイプ〉の集合を規制するために、次のような原則を抽出することができる。

(2) 〈クリプトタイプ〉は、〈プロトタイプ〉の構築に貢献する。

〈プロトタイプ〉は、単心的な (monocentric) 構造と、多心的な (polycentric) 構造とに分けることができる。前者の場合は、意味的な中核を抽出することができ、後者の場合は、意味的な要因が家族的類似関係を結ぶことになる。いずれにしても、上記の原則によって、〈クリプトタイプ〉は、意味的な結束性を有するもののみ限定され、共通する顕在的要素と共起する偶発的な異分子を排除することができる。

〈クリプトタイプ〉は、類義語の考察に光を投げかける。例えば、再び、否定接頭辞を例にとれば、un-は、gentle, kind, clean, easyなどと結合しうる。同様に、in-も、visible, sane, formal, finiteなどと結合する。この場合、それぞれの〈クリプトタイプ〉を検討し、そこに見られる一般性を抽出し、それぞれの接頭辞の意味を明らかにすることが考えられる。この場合、〈クリプトタイプ〉同士は、重複することが考えられる (ex. unhuman, inhuman)。そこにおいては、顕在的な要素の意味の相違が、より鮮明な形であらわれうる。したがって、次のような原則を設定することができる。

(3) 〈クリプトタイプ〉は、類義語の記述に貢献する。

本稿では、この〈クリプトタイプ〉の概念を、文法記述の中核に置く。具体的には、2種類の〈クリプトタイプ〉を比較対照し、その相違性と類似性を抽出する。このような文法を、〈クリプトタイプ文法〉と呼ぼう。

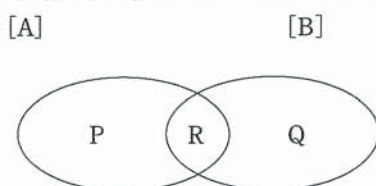
〈クリプトタイプ文法〉には、次の主要な概念がある。

- ① 〈フック〉 (hook) : 明示的な言語要素。 (ex. un-)
- ② 〈クリプトタイプ〉 (cryptotype) : 〈フック〉と統合関係にある言語要素。潜在的な言語範疇を構成する。 (ex. wrap)
- ③ 〈領域〉 (sphere) : 〈フック〉と〈クリプトタイプ〉が構成する言語環境。 (ex. unwrap)
- ④ 〈対〉 (pair) : 狭義には、一対の〈フック〉。何らかの共通性を有し、範列的關係を結ぶ。広義には、〈フック〉・〈クリプトタイプ〉・〈領域〉から構成される言語要素関係。

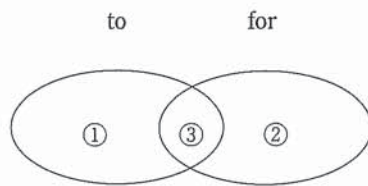
言語形式 [A] と言語形式 [B] を、明示的な2つの言語要素であると仮定しよう。すなわち、言語形式 [A] と言語形式 [B] は、一対の〈フック〉である。このとき、次のような条件が整備されたとする。

- ① 〈クリプトタイプ〉 Pは、言語形式 [A] のみと統合的關係にある。
- ② 〈クリプトタイプ〉 Qは、言語形式 [B] のみと統合的關係にある。
- ③ 〈クリプトタイプ〉 Rは、言語形式 [A] と [B] の両方と統合的關係にある。

上記の関係を図式化すると、以下のようになる。



具体例を観察しよう。〈対〉がto/for、〈クリプトタイプ〉が動詞、〈領域〉が [NP V P NP] の場合である。



[NP V P NP]

- ① give, lend, hand, pass, throw, send, post, take, pay, sell, show, offer, read, etc.
- ② buy, get, fetch, find, leave, save, reserve, order, make, cook build, pick, etc.
- ③ bring

上記の事例における① ② ③の各動詞が、〈クリプトタイプ〉である。それぞれの成員は、範列的關係をなすが、その数は、無限ではなく、当該の統合的關係を満たすよう規制されている。それぞれの〈クリプトタイプ〉は、何らかの〈プロトタイプ〉を有する (Levin 1993)。

〈対〉は、言語要素のさまざまなレベルにおいて成立する。通例、〈対〉は、閉じられた集合であり、共起要素は、開かれた集合である。代表的な〈対〉は、次のような例である。

〈フック〉	〈クリプトタイプ〉	〈領域〉
接頭辞 (-ness, -ity)	語基 (kind, formal)	語
属格形式 (of/ 's)	名詞	句
前置詞 (to, for)	動詞 (give, cook)	文
直示的動詞 (come, go)	名詞 (operation, action)	文

〈対〉は、次のような特徴をもつ。

- ① 〈対〉は、言語の種々のレベルにおいて、言語要素の分布に関し、記述の視点を提供する。ただし、〈対〉は、言語事実を説明するものではない。
- ② 〈対〉は、2つの言語形式を併置し、両者を対等に扱う。したがって、〈対〉には、一方が、他方より、基本的（あるいは派生的）であるという含意はない。
- ③ 〈対〉は、原則的に、2つの言語形式から構成される。しかし、〈対〉に参画した言語形式は、さらに、他の〈対〉の形成に参加することができる。

2. 形容詞の分類

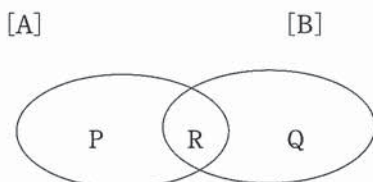
〈クリプトタイプ文法〉の枠組みを採択すると、前置詞句を従える形容詞を、新しい観点から分類することができる。ここでは、顕在的要素としての前置詞の観点から、潜在的範疇を構成する形容詞を分類する。すなわち、次のように規定しよう。

- (4) a. 〈フック〉：前置詞
- b. 〈対〉：一組の前置詞
- c. 〈クリプトタイプ〉：形容詞
- d. 〈領域〉： [NP be Adj P NP]

このとき、〈クリプトタイプ〉としての形容詞を次のように分類することができる。

- (5) a. 〈単極形容詞〉 (P, Q)
- b. 〈双極形容詞〉 (R)

c. 中和形容詞 (R)



〈単極形容詞〉とは、一組の前置詞 [A] [B] のうち、一方としか共起しないタイプの形容詞を言う。〈対〉は、原則として、2つの〈フック〉から成り立つ。したがって、〈単極形容詞〉は、それぞれの〈フック〉と共起関係にある成員であるので、P, Qの2種類あることになる。

〈双極形容詞〉(R) とは、〈対〉のうち、そのいずれの前置詞とも共起するタイプの形容詞を言う。しかし、その場合、後続する名詞の意味特性に応じて、前置詞の具現を予測することができる。なぜなら、この場合の前置詞の分布は、相補分布をなすからである。

〈中和形容詞〉(R) も、〈双極形容詞〉と同様、2つの前置詞と共起することができるが、その場合、形容詞の意味は不変である。この場合、前置詞の具現は、後続する名詞によって予測することはできない。なぜなら、まったく同一の言語環境において、2種類の前置詞が生起しうるからである。この場合、前置詞は、交替するとみなすことができる。すなわち、〈中和形容詞〉において、前置詞は、自由変異をなす。

〈双極形容詞〉および〈中和形容詞〉が従える前置詞は、対立しない。なぜなら、それぞれにおいて、前置詞は、相補分布的、自由変異的に、具現するからである。さらに、一組の〈単極形容詞〉に共起する前置詞同士も、対立しない。なぜなら、それらは、意味的に重複せず、これも、相補分布であると考えられるからである。すなわち、〈フック〉としての前置詞は、互いに、変異形である。この変異形は、音韻的に規定されているわけでもなく、形態論的に規定されているわけでもない。その具現は、先行する形容詞、あるいは、後続する名詞の属性によって意味的に規定される。ここでは、それを、文法的変異形 (grammatical variant) と呼ぶ。このことは、英語の前置詞のすべてが、対立的であるわけではなく、非対立的な前置詞も存在する、という理論的含意を導く。すなわち、turn in とturn offにおけるin/offは、対立するが、arm...with...とunarm...of... におけるwith/ofは、対立しない。

構造言語学においては、ある抽象的なイーミック (emic) な形式を措定し、エティック (etic) な変異形は、その具象形であると認定する。すなわち、言語記述を、抽象と具象の2つに分離する。しかし、〈クリプトタイプ文法〉では、そのような主張をするわけではない。〈クリプトタイプ文法〉においては、2つの〈フック〉は、その形式のありようを予測することができるという点で、文法的変異形であるが、両者とも、それ以上抽象的なレベルに還元することのできない根源的言語要素である。2つの〈フック〉は、自立的であり、かつ、関係性を持つ実体的要素である。〈クリプトタイプ文法〉は、言語における非対立的要素 (文法的変異形) を抽出することに力点をおく。非対立的要素は、2つの〈フック〉から構成される〈対〉として位置付けられる。

3. fromとtoを従える形容詞群

3-1. fromを従える〈単極形容詞〉

CCGPにおけるfromを従える形容詞は、9つに分類されている。それぞれのグループを代表する

形容詞は、以下のとおりである。

(6) absent, different, indistinguishable, apparent, safe, accessible, dead, dirty, others.

これらの中で、意味的に、toと対立すると考えられるのは、以下の3つである。

(7) absent型：人間、事物、集団が、他の人間・事物・集団と分離していることを表す。

(a) 物理的 e.g. absent, missing, remote, distant, far

He has been absent from his desk for two weeks. Cobuild

(b) 法的 e.g. divorced, separated, disengaged, independent

She is divorced from their father. CCGP 2

(c) 感情的 e.g. alienated, detached, estranged

He felt alienated from his peers. Cobuild

(8) different型：人間や事物が、互いに、相違していることを表す。(different, divergent, separate, distinct, divorced, unchanged)

London was different from most European capitals. Cobuild

(9) indistinguishable型：二人の人物、あるいは、二つの事物が、物理的に分離できないこと、あるいは、識別できないことを表す。(detachable, (in-)distinguishable, (in-)separable, removable, indivisible, unrecognizable)

Replica weapons are indistinguishable from the real thing. Cobuild

これらは、いずれも、〈プロトタイプ〉として、《分離》をあらわしていると考えられる。このうち、最も中核的な意味を持つのは、(7)のabsent型であると考えられる。ここにおいて、ある実体は、物理的・法的・感情的に、何らかの場所から、遊離していることを表す。この述語は、2つの実体を比較し、その属性が、相違することを陳述する。中でも、distantは、2つの実体の物理的距離を陳述する点において、最も具体的であり、典型としての資質を有すると考えられる。(8)のdifferent型は、2つの実体の属性としての差異を述べる。(9)のindistinguishable型も、否定的意味を含有する場合があるが、(8)と同様の意味を有する。

3-2. toを従える〈単極形容詞〉

CCGPにおけるtoを従える形容詞は、以下のように、20に分類されている。

(10) beneficial, detrimental, partial, generous and horrible, fascinating and infuriating, similar, important, sensitive, accustomed, liable, married, inferior, responsible, restricted, recognizable, obvious.

上記の形容詞の中で、本節の考察の対象となるものは、その〈プロトタイプ〉が、《近接》を表すものである。《近接》は、前節で言及した《分離》の反対概念である。《近接》を表す形容詞群は極めて混質的であるが、人間に関する素性についての選択制限を考慮に入れると、以下の4つに分類することができる。

第一は、主語にも、目的語にも、人間に関する選択制限が課されないタイプである。

(11) parallel型：2つの物体の物理的《近接》：parallel, perpendicular, adjacent, contiguous, close, opposite

a. This trail was roughly parallel to the border. Cobuild

b. The bruising was not contiguous to the wound. OALD 5th

(12) tantamount型：2つの命題の外延的《近接》：close, next, near, tantamount

They complained that patenting a human gene is tantamount to patenting human life and

is immoral.

(13) similar型：2つの事項の内在的《近接》：akin, analogous, contrary, different, dissimilar, equal, equivalent, identical, parallel, related

a. The accident was similar to one that happened in 1973. Cobuild

b. A unit is equivalent to a glass of wine or a single measure of spirits. Cobuild

第二は、目的語の名詞が人間でなくてはならないという制約が課されるものである。

(14) accessible型：事物（あるいは場所）と人間との物理的《近接》：off-limits, (in-)accessible, open

a. Much of the country was still off-limits to outsiders.

b. The gardens are open to public. OALD 5th

第3は、主語の名詞が人間でなくてはならないという制約が課されるものである。

(15) partial型：主体とその嗜好対象との《近接》：addicted, attached, attracted, devoted, sympathetic, wedded

a. Mollie confesses she is rather partial to pink. Cobuild

b. She had become addicted to golf. Cobuild

(16) sensitive型：主体と刺激との感覚的《近接》：alert, allergic, blind, deaf, immune, open, responsive, susceptible, venerable

a. A poet is especially sensitive to beauty.

b. If you are allergic to milk products then yogurt will not be good for you.

(17) accustomed型：主体と外界との《近接》：accustomed, acclimatized, habituated, unused

a. The animals here are still so unaccustomed to humans that they have not learned to fear them. CCGP

b. I was accustomed to being the only child at a table full of adults.

第4は、主語も目的語も、人間でなくてはならないタイプである。

(18) married型：二人の人間の契約上の《近接》を表す：affiliated, betrothed, federated, articed, engaged, married

a. He was happily married to a girl he had known since his schooldays.

b. He was initially articed to a solicitor. Cobuild

ひとつの形容詞が、これら4つのタイプのいずれかのみに属するわけではない。例えば、closeは、以下のように、物理的接近、心理的接近を表すことができる。

(19) a. The church is close to the school. OALD5th

b. She is very close to her father.

c. He was close to tears.

d. His feeling for her was close to hatred.

3-3. from/toを従える〈双極形容詞〉

前置詞from/toを従えることができる〈双極形容詞〉には、以下のものがある。

(20) a. visible, invisible, audible, accessible

b. familiar, evident, apparent, obvious, clear, unrecognizable

c. available, free

上記の形容詞がto句を従える場合、前置詞句内の名詞は、判断を下す主体を表す人間を表す。

(21) a. The crowd included faces recognizable to anyone who's been to the cinema in the past

(259)

five years.

- b. The rationale for legal reform has been the need to make the justice system more accessible to ordinary wage earners.
- c. Documents not accessible to the public
- d. Although panic is not obvious to the casual observer, it lies just below the surface.
- e. The answer was far from self-evident to him.
- f. Her anxiety was apparent to everyone. LDCE
- g. Is all this clear to you? LDCE
- h. The new town would have been unrecognizable to the original inhabitants. Cobuild
- i. The voice on the phone sounded familiar to me. LDCE

人間以外のものをあらわす名詞もくることができるが、その場合、当該の名詞は、人間を換喩的に表したものであると解釈することができる。

- (22) a. Germs that are invisible to all but the most powerful microscopes LDCE
b. This star is not visible to the naked eyes. OALD

fromを従える場合、後続する名詞句には、人間以外のものがくる。具体的には、比較の対象、判断の原因、あるいは、場所をあらわす表現が現れる。それは、次のように、下位分類することができる。

①証拠をあらわす場合

- (23) a. His face was familiar from a thousand statues.
b. Saturn's low density is apparent from its outline.
c. No living conductor is more instantly identifiable from the sound he makes.
d. The corpses of the prisoners were nearly unrecognizable from the number of bullet wounds they'd received. Cobuild

②場所（距離）を表す場合

- (24) a. The central sink unit is easily accessible from all sides of the room.
b. The beach accessible only from the sea OALD
c. The church spire is visible from miles away. NOD
d. The lines were so finely etched as to be invisible from a distance. Cobuild
e. Certain problems were apparent from the outset. OALD

③比較の対象をあらわす場合

- (25) She was unrecognizable from the girl she had been earlier.

このことから、〈二極形容詞〉と共起する2種類の前置詞from/toは、対立しないと帰結することができる。すなわち、それらは、相補分布的に具現する。それらの分布は、原則として、名詞の意味属性に規定される。当該の名詞が人間を表すときはtoとして具現し、そうでない場合は、fromとして顕現する。

immuneについて、言及しておこう。Burchfield (1998) によれば、次のような使い分けがある。

①to：免疫力がある、影響されない。②from：免除された、免れた

- (26) a. No one is immune to his immense charm NOD
b. We are virtually immune to certain diseases. Cobuild95
c. Football is not immune to economic recession. Cobuild98
(27) a. They are immune from legal action. NOD

b. The fabric of modern society is not immune from decay. Cobuild95

c. No one is immune from scandal. Cobuild98

これらは、〈フック〉の後にくる名詞が人間かそうでないかによっては説明できないが、2つの〈フック〉の棲み分けが成立しているので、対立しないと考えられる。

3-4. fromとtoを従える〈中和形容詞〉

このタイプの形容詞は、前置詞が、交替する場合をさす。次の資料を観察しよう。

(28) a. Mary is different from/to Jane. Lex

b. This is opposite from/to my belief. AHD

c. The pleasures of the romance novel are not dissimilar from those of the chocolate bar.
NOD

d. His methods were not dissimilar to those used by Freud. Cobuild

ここにおいて注目すべきことは、これらの述語が、意味的に、均質的であることである。具体的には、これらの形容詞は、《相違》を表している。交替現象という、理論的には、等価な現象が、意味的に、このような偏向を示すのは、興味深い。この点に関し、池上(1981)は、〈起点〉と〈到達点〉の非対称性の議論は、参考になる。すなわち、論理的には〈起点〉的な表現が予想されるところに、〈到達点〉的な表現が代用されることがある、と池上は述べる。これは、上記の例でいえば、toのfromの領域に対する侵入現象に該当する。

toのfromの領域に対する侵入現象は、〈中和形容詞〉だけでなく、単極形容詞においても観察される。toを従える単極形容詞について、もう一度考察しよう。

close, akin, adjacent, nearなどは、《近接》の意味を表す代表的な、toを従える〈単極形容詞〉である。一方、hostile, contrary, repugnantなどは、《分離》をあらわすtoを従える〈単極形容詞〉である。すなわち、toを従える〈単極形容詞〉には、意味的に2種類あることになる。

それに対して、fromを従える〈単極形容詞〉は、distant, far, remote, divorce, absent, separatedなど、すべて《分離》をあらわす。